

## 秋田市マイタウン・バス北部線のアンケート結果および今後の対応について

## 1 目的

秋田市マイタウン・バス北部線の利用促進を図るため、利用者や地域住民に対しアンケート調査を実施した。

## 2 調査概要

## (1) 対象者

北部地域（金足・下新城・上新城地区）の路線沿線に居住する市民の中から、無作為に抽出した1,100世帯を対象とした。

## (2) 調査期間

平成25年8月28日～同年9月10日

## (3) 配布・回収状況

配布数 (世帯数)	回収数 (世帯数)	回収率 (世帯ベース)	回収枚数 (個人数)
1,100	531	48%	819

## (4) 調査費用

予算額335,000円→決算額293,075円 ▲41,925円

(秋田市マイタウン・バス北部線のPRを目的として路線図・時刻表・利用方法を記載した用紙(A4版カラー両面)を追加したため印刷費は増加したが、集計・入力を市臨時職員が実施したことから賃金が発生しなかったものである。)

## 3 主要調査結果と対応方針（3地区集計結果）

## (1) 認知度 [問2]: 81% (知っている)

知っているにも関わらず利用されていないため、更なるPRに努め周知していく必要がある。

## (2) 利用の有無 [問3]: 16% (利用したことがある)

自家用車(送迎あり含む)の利用率が79%(問4から)と高く、利用していない人が84%存在する。利用率の低下を抑止し、秋田市マイタウン・バス北部線を維持していくための方策や、高齢化社会に対応するため、自家用車から公共交通へ転換する意識啓発が必要となる。

→ 路線図・時刻表を各戸に配布(時刻改正時も同様とする。)

- ・ PRポスターを作成し、公共施設等に掲示し周知
- ・ 連合町内会の総会等で利用促進に向けた説明会を実施する。

## (3) 目的別利用者 [問5]: ①通勤・通学、②買物、③通院・面会 (目的別順位)

→ 利用目的、頻度に応じたダイヤの改正

(4) 利便性向上策 [問 7]

便利になっても利用しない27%、定時定路19%、予約簡素化14%、ルート増・フリー乗降13%

- 定時定路運行が若干高いものの、「便利になっても利用しない」という回答が圧倒的に高く、大幅な利用者数の増加は見込めず、また、赤字額が現行の約2倍の5,400万円となることなどから、現段階での定時定路運行への追加投資は困難である。
- ・ 予約の簡素化やルートおよびフリー乗降については、利用促進のため検討していく。

(5) 運行内容の満足度 [問 1 2]

便数・ルート・運賃・バス停までの距離については、半数以上が良いと回答しているが、バスへの乗り継ぎ時間が長いと答えた人が41%存在するため、ダイヤの検討が必要となる。

- 最適な乗り継ぎ時間となるよう適切にダイヤ改正を実施する。

(6) 利用方法 [問 1 4]

予約の必要性および煩雑さで、半数以上が欠点としてあげている。

- 予約の方法やオペレーターの対応も含め、運行事業者とともに予約しやすい環境作りをし、利便性の向上を図る。(例：一度利用すると、電話番号が予約センターに登録されるため、次からの予約の手続きが簡素化される等)

#### 4 秋田市マイタウン・バス北部線運行協議会結果

アンケート結果を基にした市の対応案について協議した。

①開催日時：平成26年1月24日 午後2時

②委員：地区・利用者・教育機関・福祉関係各々の代表者および運行事業者、行政（市交通政策課）

協議結果：・現在の運行方式を継続することで了解を得た。

- ・PR用ポスターを近隣公共施設等に掲示、分かりやすい路線図および時刻表を作成し全戸配布することになった。

#### 5 今後の運行等について

- ・運行方式については、現状どおり予約式で運行する。
- ・利用促進を図るため、更なるPRの実施や利用しやすいダイヤの設定、利用者の利便性に配慮したフリー乗降の検討、運行事業者の研修、予約しやすい環境づくりなどサービスの充実を図る。